

# 第18回 教育セミナーの参加記録

日時 平成27年2月21日(土)  
主催 総合初等教育研究所  
後援 文部科学省 東京都教育委員会  
場所 国立オリンピック記念青少年総合センター

◇ 分科会 総合初等教育研究所から研究委嘱された3人の教員が実践を提案する。

## I 理論提案 梶井 貢(総合初等教育研究所室長/元校長・東京学芸大講師・国士舘大講師)

### 1 今年度(第8期)の研究

- (1) 研究テーマ 「主体的な問題解決学習を促す社会科の授業づくり」  
サブテーマ ～「見通す、自力解決する、振り返る」ことを重視して～

### 2 研究主題の設定理由

#### (1) 「確かな学び」の実現

##### ○ 確かな学びとは？

- A 知的側面・・・基礎・基本の徹底 → 確かな知識・技能の定着  
B 情意的側面・・・主体的・問題解決的な学習 → 自力解決できる子

#### (2) 社会科の現状から

- 真に子どもたちの問題解決学習が成立していない。  
① 子どもに学習過程が意識されていない。  
② 学習計画, 学習の見通しがもてていない。  
③ 調べる(追究)過程といいながら, 教師中心で教え込んでいる。

### 3 今年度(第8期)の研究の重点

- (1) 子ども中心の問題解決学習をどのように実現していくか?  
(2) 問題解決学習を重視しながらも, 確実に知識・技能の定着を図るにはどうするか?  
(3) 子どもが学習成果を自覚し, 次の学習に意欲がにつながる評価をどう具体化するか?

### 4 具体的な研究内容

#### (1) 主体的な問題解決を促す授業づくり

- ① 学習問題の設定までの工夫・・・子どもの問題意識から「学習問題」へ  
② 学習計画を立てる段階の重視・・・学習の見通しをもたせる手立て  
③ 個の追究, 自力解決の場の設定  
④ 学び合い, 自力解決の場の設定  
⑤ 学習の振り返りの重視

#### (2) 授業に生かす評価

- A 学習過程にそって学習状況をていねいに見取ること  
・つかむ段階での評価/調べる段階での評価/まとめ(振り返り)の段階での評価  
B 評定のための評価から授業に生かす評価へ  
・評価を直ちに子どもの学びに反映させる・・・短いサイクルで  
・PDCAサイクルの重視

### 5 今年度(第8期)の成果と課題

#### (1) 成果

- ・つかむ段階での教材の工夫
- ・「見通しを立てる」「自力解決する」段階での指導の工夫
- ・自己の考えを深める表現活動の工夫と評価への活用
- ・授業に生かす評価の具体的手法の工夫

(2) 課題

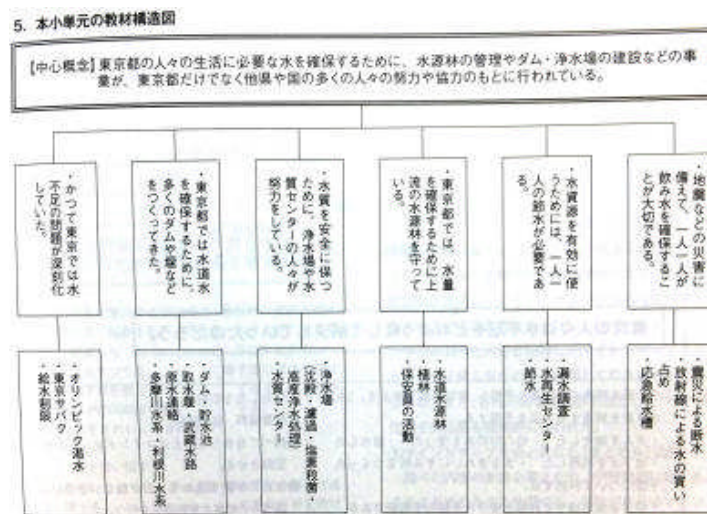
- ・「振り返り」の活動における工夫の仕方
- ・個の学習状況に対応するきめ細かな指導や支援のあり方
- ・授業に生かす評価法のさらなる開発、工夫

II 実践提案

◆ 問題意識を高める教材とマインドマップを活用した 4年「くらしをささえる水道」の学習

練馬区立船戸小学校 嵐 元秀

○ 単元の構造



○ これまでの「水道」の学習の反省

- ・「学校の蛇口調べ／水道使用量」からC「水はどこからどうやって送られてくるのだろう？」
- 「蛇口調べ」だけは盛り上がる。これでよいか？
- ・子どもたちの学習に対する主体性を高めるには？

○ 導入・・・東京の水道事業から

- ・人口推移、水道使用量の推移、水不足との戦い・・・写真2枚と地図を提示

○ 本実践の意図

- ・過去の水不足と防災への備えを教材化する。
- ・「マインドマップ」を使って問題解決力を育てる。
- ・教師のアドバイスと児童の相互評価を生かす。→ 評価の日常化を図る。

○ 指導計画（全14時間）

つかむ 〈2時間〉	① 東京の水道使用量を調べ、問題意識を持つ。 ② 昭和39年の大規模な水不足を調べ、学習問題を考える。
調べる 〈8時間〉	③ 水不足を解決する方法を予想し、学習計画を考える。 ④～⑨ 水不足を解決した取組を調べ、節水の大切さを考える。 ⑩ 調べた内容を互いに説明し合う。
まとめる 〈2時間〉	⑪ 自分が調べた内容ごとに短い文でまとめる。 ⑫ 学習問題に対する自分の考えを書く。
生かす 〈2時間〉	⑬ 東日本大震災の際の水の問題を調べる。 ⑭ 「私と水道」というテーマで文章を書く。

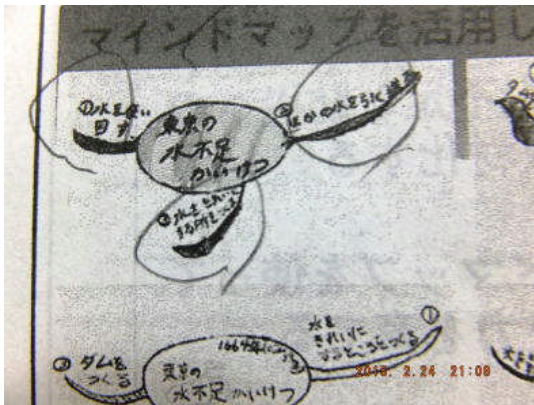
○ 切実感をもたせる資料を提示する。

- ・ 昭和39年オリンピック渇水……小内ダム「貯水量2%」(写真)「給水制限50% (新聞記事)」
- ・ 「東京都の人々は水不足をどのようにして解決していったのだろうか？」
- ・ 人々の気持ち……「飲むものがないよ」「これからどうなるの」「せんとくきが使えない」「もっとダムをつくって」「死んでしまう」「赤ちゃんにあげる水が……」

○ 予想や学習計画を考える

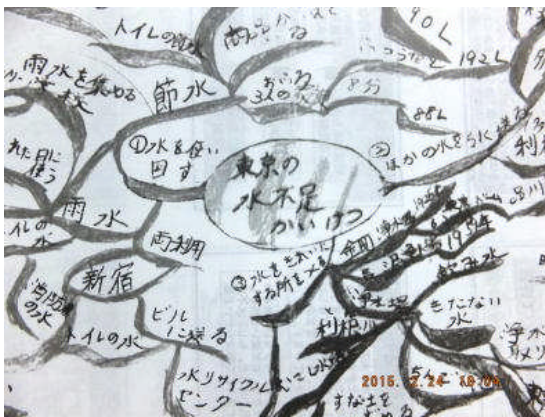
- ・ 一人ひとり異なる学習計画 → 主体的に考える源となる。
- ・ 予想を出し合う → 「ほかの川の水を東京へ運ぶ(引く)」「もう一つダムをつくる」「地下水を使う」「他の県の水をもらう」「水を使い回す」「節水する」など多数。
- ・ 予想を3つ選ぶ → 可能性があると思う順に(ランキング) → なぜその3つを選んだか?を説明

○ マインドマップを活用した「学習計画づくり」



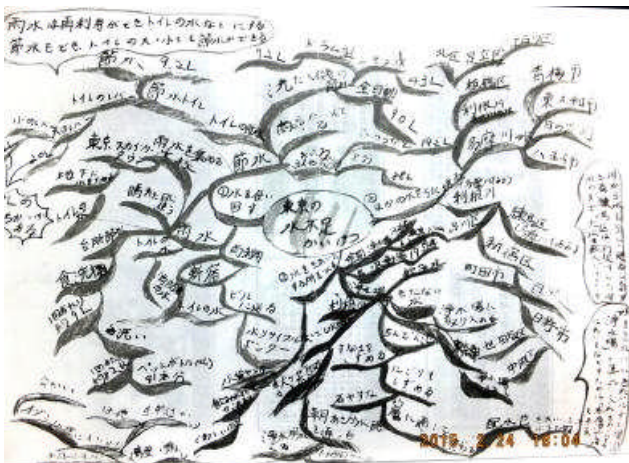
- ・ マインドマップを使って学習計画を立てる。
  - 選んだ3つの枝を広げる。
- ・ 主体的に情報収集
- ・ 「つかむ」段階
  - 水不足を解決するためにおこなわれたことを予想し、書き込む(枝を広げる)ことで調べる内容や順番を明確にする。

○ マインドマップを活用した「調べる活動」



- ・ 調べたことを短い言葉でつないでいく。
- ・ 「整理」「分類」「関連」を意識しながらつないでいく。
- ・ 調べたことを丸写しにすることを防ぎ、必要な情報を選び、整理しながら関連性を考える能力を高めていく。→ 教師の支援
- ・ 「なぜこういうふうになった?」などと、教師が刺激を与える(これが支援)ことで、考えを整理したり、まとめたりして説明できるようにし、また自分の考えに自信をもつこともできるようにする。

○ マインドマップを活用した「まとめる活動」



- ・ 調べてわかったこと、思ったことなどを短い文にまとめて書き込む。
- ・ 解決に向けての取組の意味や役割について考え、表現力を高める。
- ・ 最終的な自分の考えを吹き出しに書き込む。

- マインドマップを活用した「学び合い活動」
  - ・マップを見せながら情報交換、情報共有 → 思いをもってマップを作成しているため、きちんと説明することができる。
  - ・マップを使って説明することで、調べた内容に対する理解を深めることができる。また、友だちの説明を聞くことで調べ方や説明の仕方のよさに気づき、自分の学習に生かすことができる。
  - ・新しい情報は自分のマップに朱書加筆する。
  - ・「学び合い」＝「相互評価」となる → 自分のよさを自覚し、友だちのよさを認める。
- 評価の工夫
  - ・マインドマップを毎時間集める……一人ひとりの学習計画を把握し、つまづきを見取る。  
……助言したり、新たな資料を提供したりする。  
\*一人ひとりが異なる内容を自力で調べていくため、計画通り進められない子に対する支援が必要になる。毎時間マップを集め、進捗状況を確認し、アドバイスや資料提供をしていく。
  - ・評価の工夫……マインドマップで4観点すべてを評価  
マップの広がり → 資料活用      マップ全体 → 関心・意欲・態度      文 → 思考・判断・表現
- 切実感をもたせる教材で意識を広げる（「生かす」段階）
  - ・東日本大震災をとりあげる……災害に備える
  - ・C「地しんが起きたら水道が止まってしまうから、もしものためにそなえが必要」「一人でも水はたくさん使うから、大家族だともっとたいへんです」「災害が起きなくても節水しようと思いました。」
- 学習を振り返る活動
  - ・作文を書く → 事象への判断、自己の決意、生き方
- 研究の成果と課題……主体的な問題解決
  - ・〔成果〕切実感をもたせること → 問題意識の持続／節水意識の向上
  - ・〔成果〕マインドマップの活用 → 多くの情報を収集／自分の力で思考／適切な評価
  - ・〔課題〕振り返り活動を充実させる → 今後の学習への転移・応用／学習内容の振り返りにとどまった／学びの進め方の評価にまで至らなかった。

◆ リーフレットの工夫で問題解決を図った 5年「自動車会社を訪ねて」の学習

東村山市立秋津小学校 一杉大介

- 本実践の意図
  - ① 自動車工業の未来を考えさせる。  
「どんな自動車が必要か」→ 自動車づくりに限定したまとめになりがち  
そこで、「自動車産業はどうあるべきか」を学習 → 工業全体の未来を考えさせる。
  - ② リーフレットを作成（子どもたちのゴール）し、その工夫で問題解決を図る（教師）。  
リーフレット……紙面が限られている → どこに何を書くか？計画が必要 → 見通しをもった自力解決
  - ③ 付箋を活用した指導と「評価の一体化」  
調べ学習に見られる課題……誤った事実認識／事実に対する意味づけの不足／1つのことに固執し、視点が広がらない。→ 付箋を活用し、これらの課題を克服したい。

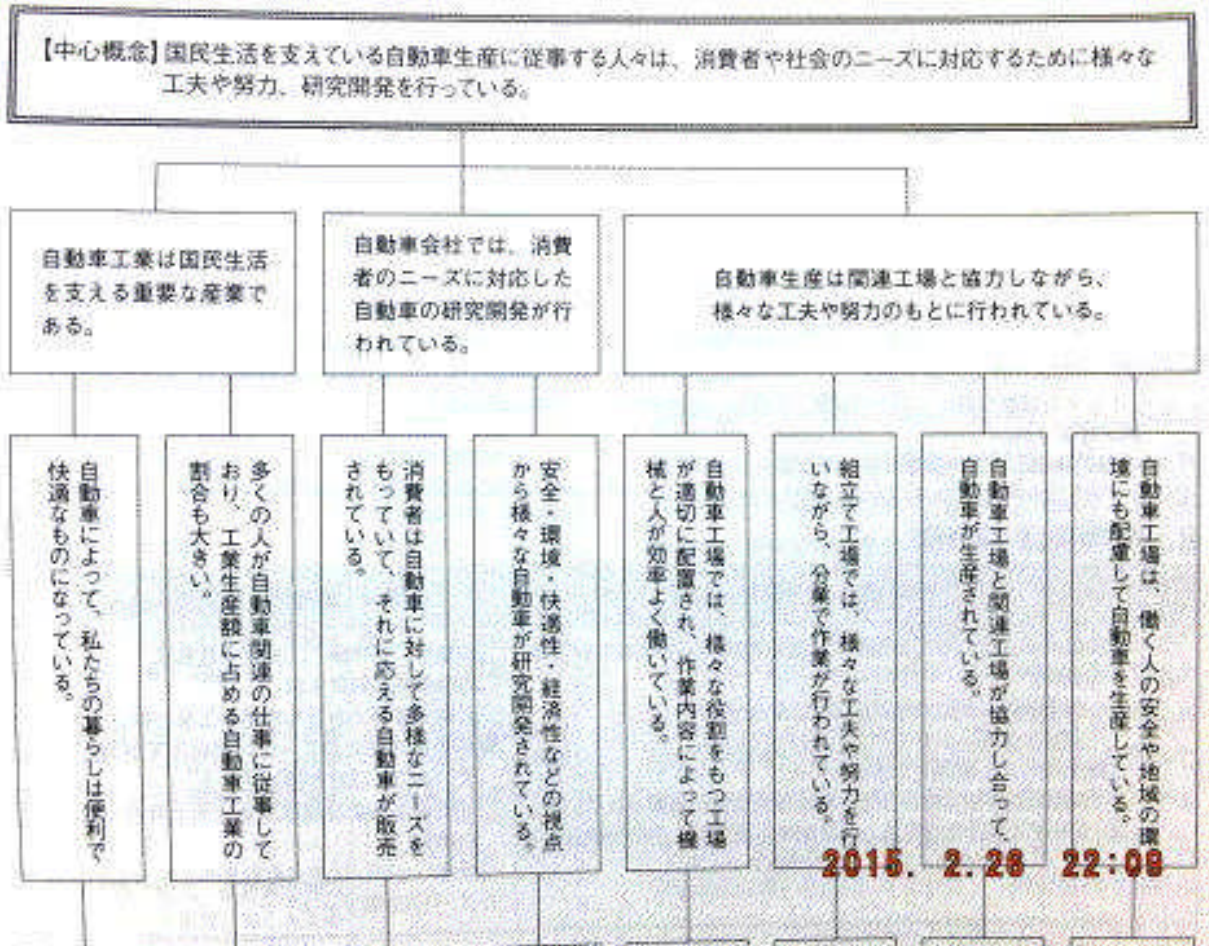
○ 指導計画

つかむ 〈3時間〉	①自動車が生活に与える恩恵、自動車産業の重要性 ②販売店の人との模擬注文体験 ③学習問題づくり 〔自動車工場ではどのようにして消費者や社会のニーズに合わせた自動車を大量に生産しているのか？〕
調べる 〈7時間〉	④調べ学習の見通し 〈実践の意図②：リーフレットで問題解決の見通しをもつ〉

	⑤～⑩調べ学習 〈実践の意図③：付箋による指導と評価の一体化〉
まとめる 〈1時間〉	⑪学習問題に対するまとめ 〈実践の意図①：自動車産業の未来を考えさせる〉
生かす 〈2時間〉	⑫⑬これからの自動車産業はどうあるべきか

○ 単元の構造

5. 本小単元の教材構造図



○ 問題解決を促す授業づくりと評価

主体的な問題解決を促す授業づくり	指導に生かす評価
<p>①疑問を喚起する資料提示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車工場の空撮写真と、それと等尺の学区の地図。</li> <li>・校庭に並べられる自動車の台数。</li> <li>→「大量の自動車をどのように生産しているのか」という疑問を喚起する。</li> </ul> <p>②リーフレットを活用した学習の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習問題を解決するために何を調べるか。</li> <li>・リーフレットのどこにそれを記述するか。</li> <li>→リーフレットに記入しておくことで学習計画になる。</li> </ul> <p>③話し合い活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなの意見を聞いてみたい話題」を話し合いの中で子供が提案する。</li> <li>→学習内容の広がりや深まりにつながる。</li> </ul>	<p>①付箋を活用した評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間作成途中のリーフレットを回収し、アドバイスを付箋に書いて返却する。</li> <li>→次の時間の調べ学習に役立たせる。</li> </ul> <p>②自己評価と相互評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレットに学習問題に対する予想を記述する。</li> <li>・調べ学習を終え、学習問題に対するまとめを記述する。</li> <li>→はじめに書いた予想と最終的なまとめを比較する。</li> <li>→自らの学習の深まりを認識する。</li> <li>・友達のリーフレットを読んで学んだことを交流する。</li> <li>→相互評価を促すことになる。</li> </ul>

- 指導の実際① 「つかむ」第1時
  - ・自動車はわたしたちの生活にとって便利で豊かなものになっている／自動車産業は日本にとってなくてはならない産業である。

- 指導の実際① 「つかむ」第2時
  - ・販売店の人との模擬注文会
    - …自分のほしい車に関して様々な注文を出す。→ どんな注文にも応えてくれる。
  - ・お客さんの希望に応えられるように、いろいろな車や装備が用意されていることを知る。

- 指導の実際① 「つかむ」第3時
  - ・トヨタ自動車堤工場…広さ（自分たちの町の地図の上で比較する）
  - ・堤工場では1日に生産される台数は、約1400台！

- ・1400台並べるには秋津小の校庭7個分…しかも1台1台の色や形、装備が違う。
- ・C「1台1台違う自動車をミスなくつくれるのはどうしてだろう？」
- ・C「たくさんの自動車をつくるための部品はどうしているのだろう？」
- ・C「どうやって大量の自動車をつくっているのだろう？」

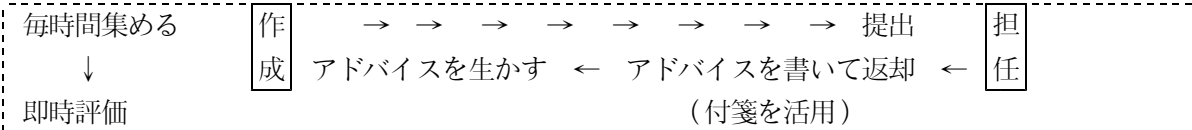
↓ 学習問題

- ・自動車工場ではどのようにして消費者や社会のニーズに合わせた自動車を大量に生産しているのだろう？

- 指導の実際② 「調べる」第4時…〈実践の意図2「リーフレットで学習の見通しをもつ」〉
  - ・子どもの自力解決を支援

学習問題に対する予想 → 自動車が完成するまでの流れ → 自動車の部品がどこでつくられているか  
→ ミスなく部品を取り付けるための工夫

- 指導の実際② 「調べる」第5時～第10時…〈実践の意図2「付箋による評価・指導の一体化」〉
  - ・付箋の活用



- 指導の実際③ 「まとめる」第11時

- ・K児の例
  - 予想：機械をたくさん使う／大人数で作業している／車のナンバープレートを見ながら間違えないようにしている

- まとめ①：正確につくるために → 指示ビラ 機械と人の共同作業
- ②：大量生産をするために → 機械の活用 交代勤務 関連工場

- 指導の実際④ 「生かす」第12時・第13時…〈実践の意図1「これからの自動車産業を考える」〉
  - ・意見文…「これからの自動車産業はどうあるべきか」
  - ・グループ協議 → 全体協議 → 付箋を使った相互評価
  - ・意見の視点 → 「安全」「自然環境」「労働環境」「外国との関係」

- 成果と課題

- ・成果
  - ① 自動車産業の未来を考えさせる → 工業の未来を様々な視点から考えさせることができた。
  - ② リーフレットの活用 → 見通しをもって自力解決させることにつながった。
  - ③ 付箋を使った指導と評価の一体化 → 調べ学習を子ども任せにすることなく、学習問題に迫れるよう評価と指導をおこなうことができた。

- ・課題

- ① まとめ方も子ども自ら選択できるようにする → 一人ひとりの個性的な追究と学習内容の確実な習得をどのように両立させるか？

◆ 個別課題と交流で問題解決を図る学習 6年「明治の新しい国づくりを進めた人々」

台東区立根岸小学校 若林廣美

○ 本実践の意図

① 資料提示の工夫

- ・ 明治の国づくりの全体像をつかませる。
- ・ 3つの視点による6種類の資料提示

② 個別の課題選択と相互の意見交流

- ・ 追究問題複線型・・・個別に追究問題設定
- ・ 「学びの一覧表（座席表式）」の設置

③ 学びの評価の工夫

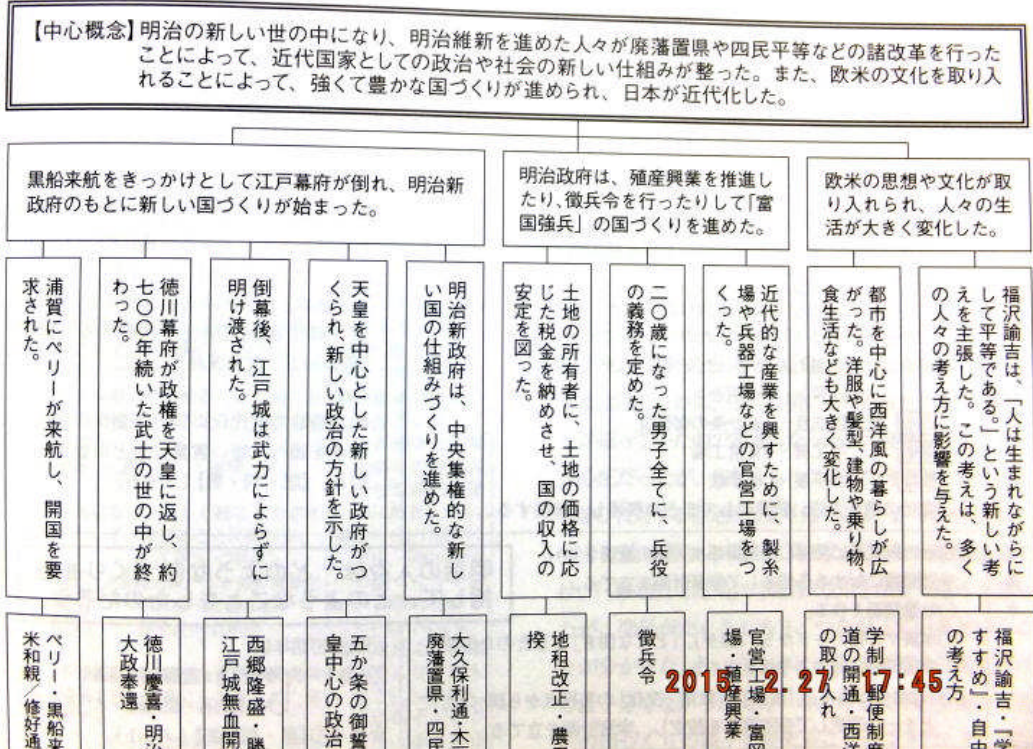
- ・ 「学びの一覧表（座席表式）」を活用した相互評価と自己評価

○ 指導計画〈全9時間扱い〉

過程	時数	学 習 活 動
つかむ	①	・「ペリー来航」をきっかけにして、小单元への問題意識を持つ。
	②	・江戸と明治の比較（3視点6種類） ・学習問題づくり
見通す	③	・年表と人物カードをもとにした個別課題設定学習計画
調べる	④⑤	・個別課題にそった自力解決
	⑥	・同課題グループによる意見交換
	⑦	・異課題グループによる意見交換
まとめる	⑧⑨	・学習したことを関係図にまとめる。 ・学習問題に対する自分の考えを意見文に表す。

○指導計画

5. 本小単元の教材構造図



2015.2.27 17:45

○問題解決を促す授業づくりと評価

7. 研究主題との関連

主体的な問題解決を促す授業づくり	指導に生かす評価
<p>①単元全体を見通し、調べる意欲を喚起する資料提示 単元最初の「つかむ」、「見通す」段階で、三つの視点（「政治」、「産業」、「教育・文化」）に基づいた資料を提示することにより、単元全体を概観させ、調べる視点を明確にする。そうすることにより、「この視点のような変化は、なぜ起こったのか」といった、調べる意欲を喚起させ、主体的問題解決学習を促すようにする。</p> <p>②歴史認識を広げ、深めていくための意見交流活動 子供一人一人が調べた課題を意見交流することにより、共通点や関連性を見いだして、歴史的事象を多面的に捉えられるようにしていく。</p>	<p>①子供自らが生かす「振り返り」 毎時間「振り返りカード」を記入することにより、子供自ら自己評価をし、自分の学習を俯瞰する。そして、次時の学習へのさらなる見通しをもつことや、教員からのアドバイスを生かしていくことに役立てる。</p> <p>②子供の学習の足跡を残し、確かな指導と評価につなげる 「振り返りカード」を基に次時への指導・支援内容を考えたり、意見交流の際のグルーピングに生かしたりしていくことにより、子供の主体的な問題解決学習を促す一助とし、評価につなげていく。</p>

○「つかむ」……実践の意図①

- ・江戸時代と明治時代の2枚の写真を提示する授業が多い。
- ・これでは生活面での変化は読み取れるが、国全体の変化の様子は見えてこない。

○「つかむ」……3視点6資料 → 江戸と明治での国づくりの変化の様子を広い視野で比較し、概観できるように。

- ・視点1 → 政治の仕組み  
(写真2枚：武家諸法度／五箇条の御誓文)：幕府中心の江戸時代からみんなが満足する明治時代へ
- ・視点2 → 産業  
(写真2枚：江戸期の農作業／富岡製糸場)：手作業が中心の江戸時代から効率のよい機械中心の明治時代へ
- ・視点3 → 教育・文化  
(写真2枚：寺子屋／学制発布後の小学校)：必要なことだけを個別に教える江戸時代から国で統一した優れた人材を育てる教育の明治時代へ)

○「つかむ」……時代の全体像を多面的にとらえる → 3つの視点から

- ・C「江戸時代と明治時代では、たくさんの変化があった。」
- ・C「政治や文化の違いでも大きく変化した。政治のことを詳しく知りたい。」
- ・C「なぜあんなに短い年月で洋風化したのか知りたい。」

○「見通す」……3視点と年表・人物カードによる「個別課題設定」→ 1つを選んで追究する。

- ・視点1：政治の仕組み
  - ・視点2：産業
  - ・視点3：教育・文化
- } それぞれ「できごと」と「人物」の2つの視点から調べる。

○「調べる」……実践の意図②

- ・個別課題にそった自力解決1時間目

○「調べる」……自ら選択した課題を意欲的に自力解決

- ・個別課題にそった自力解決2時間目  
多用な追究 → 人物にできごとを絡ませる／できごとに人物を絡ませる

○「調べる」……同じ課題グループによる意見交流

- ・C「自分の考えと違って」「自分の考えに自信がもてた」「早く違う課題の人たちの意見を聞きたい」
- ・自信をもたせる、深める。→ 補完と修正

○「調べる」……違う課題グループによる意見交換1時間目

- ・共通点や関連性を見いだす。
- ・C「〇〇さんの考えを聞いてみよう」「そんな取り組みもあったんだね」
- ・「学びの一覧表」を使って共通点や差異点、関連性を見つける。



「学びの一覧表」→ 掲示板に貼っていく。全員の追求の様子がわかる。→ 情報共有, 相互評価

○「調べる」…違う課題グループによる意見交換2時間目

・構造化し, 学習問題に迫る。

○「調べる」…違う課題グループによる意見交換3時間目

・C「大久保利通はどの分野でも活躍している！」

・C「政治と教育・文化の共通点は「平等」かな？」

・C「3つの視点はみんな関連していそうだな。」

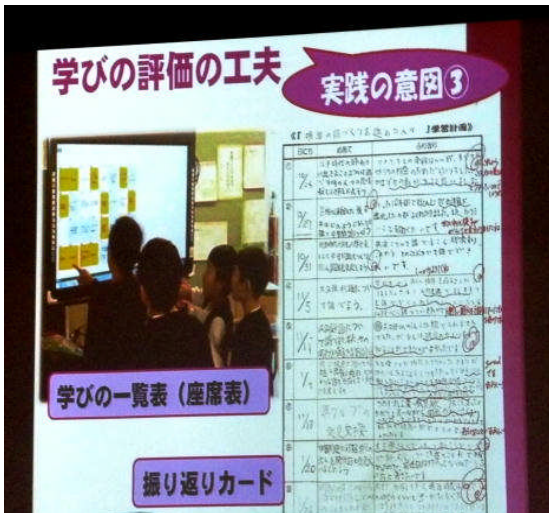
○「まとめる」

・関係図と意見文にまとめる。(関係図: Yチャート+ウエビングマップ, コンセプトマップに近い)

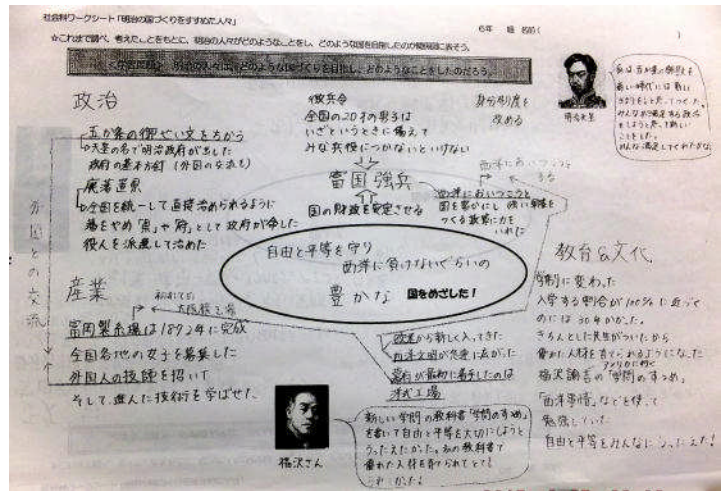
・意見文 → 事象への判断, 自分の考え, 生き方などを表現

・C「明治の人々, いろいろな改革をおこなって近代化を進め, 外国に負けない強くて豊かな国をつくっていった。」

「学びの一覧表」=毎時間の「ふり 返りカード」を元に「座席表」の形で学習の足跡を残していく。



「学びの一覧表」



「関係図」にまとめる

○ 学びの評価の工夫…実践の意図③

・「学びの一覧表」と「振り返りカード」を活用した評価

→ 「学びの一覧表」はいつでも誰でも見ることができる。

○ 成果

・3つの視点による資料提示…調べる視点の明確化→意欲的な自力解決ができた。

・個別課題の設定…学習の見通しがもてた/自ら学び取ろうとする意欲の向上/最後まで意欲が継続

・2回の意見交流の場…自分の考えが多面的になり, 広がった/異なる課題の中から共通点・関連性を見いだしたことにより, 学習問題の解決に迫ることができた。

○ 課題

・資料の吟味と精選…「3視点6資料」の資料選択の再検討

・指導に生かす評価…自力解決を促す資料提供/きめ細かな指導と助言

### III 指導講演

文部科学省教科調査官 澤井陽介先生

#### 1 学習指導要領改定の動向

(1)次期学習指導要領…「資質・能力 competency」でカリキュラムを編成

○「小中高」の系統を一本化する。

○「どう育てるか? どう育ったか?」を評価

○小中一貫教育…各教科の系統性を一本化させる。筋の通った学びを。

○中教審への諮問文…「何を教えるかという知識の質や量の改善はもちろんのこと, ……」

「知識の質や量の改善」→これがベースになっているという前提

○「社会参画」＝日本人は諸外国と比べて低い。「関わりたくない」

## (2) 検討の視点

○汎用的な資質・能力 competency を身につける学びを可能にするには？

- ・「生きる力」という目標概念を具体化させる。(構成要素を示す)
- ・資質・能力の系統表を共通の枠組みとして作成する。
- ・資質・能力の各教科へ埋め込み(関連づけ)をする。

○資質・能力の育成を意識した授業づくりを支援するには？

- ・学習過程を明確化させる。  
→学習活動を構成する「鍵となる動詞」を示す。  
(例：選択する, 予想する, 比較する, 多面的にみる etc.)
- ・育てたい能力と評価規準の関連づけをする。

## (3) アクティブラーニング

○そもそも「高校教育を変えたい」という発想→「大学入試の変革」

- ・「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)平成24年8月28日 中央教育審議会」に初出
- ・このことにより、高校教育が大きく変わる。
- ・「先端科学(仮称)」や「公共(同)」といった新教科, 日本史必修化

○小学校は「問題解決的な学習」でよい。

- ・新しく出てきた言葉に振り回されることのないよう。
- ・教育課程部会での「あまり振り回されないように」という合意。

## 2 今後の社会科の方向性

(1) 「創造」「自立」「協働」<注：総合的な学習の時間では「協同」を用いている>

### (2) 主なポイント

○ **問い** ⇒ 調べ → 考え(言語活動・思判表の育成) → 表現 ⇒ **結論**  
← 協働的な学び →

○ 社会的事象をいかに子どもに近づけるか？

- ・もともと子どもからは遠いもの(自分事ではない)
- ・いかに「自分事」にしていくか？指導の力量
- ・気づき, 予想で近づける。→ ゆえに提示する資料が重要

○ 振り返ることの大切さ(評価)

- ・結論だけを振り返るのではなく、「予想」も振り返る。→自分の予想はこれでよかったのか？

○ 「予想」と「見通し」が大切

- ・「予想」→子どもたちは多くのことを知っている。しかし間違いもある。
- ・「見通し」をもつ → 教師が意図を持って指導する。

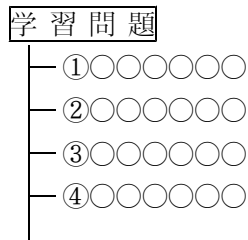
○ マインドマップ(イメージマップ)・・・結んだわけを説明できることが大事

- ・体系化された知識が活用できる。
- ・図を使って説明できること。
- ・構造化

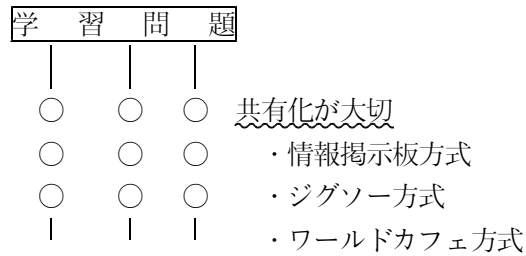
○ 学習過程の明確化

- ・使われる「動詞」でとらえるとわかりやすい。
- ・[例] つかむ → 調べる → まとめる
- ・つかんでいないのに「調べる」, 調べていないのに「まとめる」という事例が多い。
- ・「見通し」, 「計画」, 「振り返り(評価)」が抜け落ちないよう。
- ・「入れ子構造」と「縦軸構造」

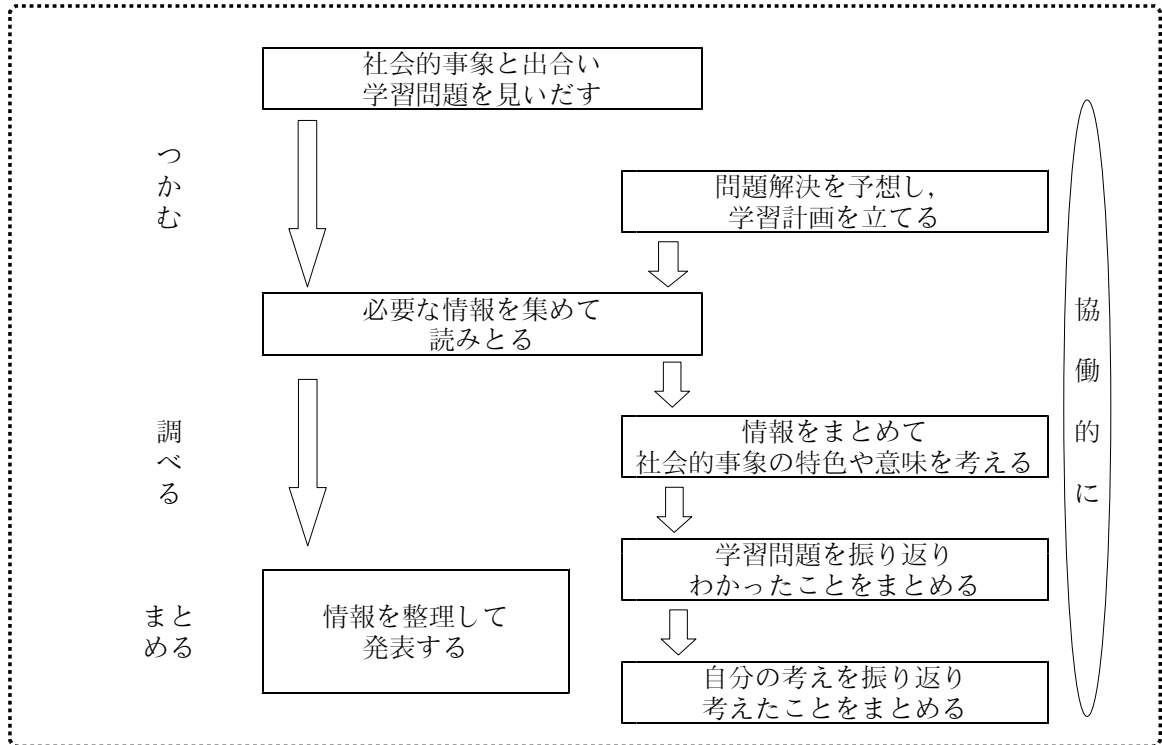
〈入れ子構造〉



〈縦軸構造〉



・学習過程の例



○「資料活用」について

- ・資料は欲しているときに与える。→ 切実感, 大事な資料
- ・一度出てきたキーワードは「カード化」→ あとで使える。(学習済であることを意識させる)

○「学習問題」について

- ・漠然とした大きな問題を具体化させる → 調べる対象を絞る。

3 これからの社会科指導のポイント

(1) 問いと見通しがもてる子

(2) 教材を研究する

(3) 協働的な学習をつくる……様々な場を確保する。

- ・予想の場面で, 計画する場面で, 表現する場面で

(4) 評価

○ 多様な方法で……ルーブリック (S・A・B・C)

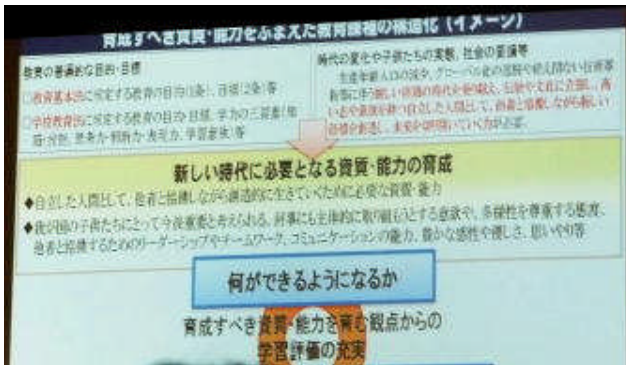
- ・予想 (期待) する子どもの反応 → 3つくらい用意する。

○ 指導に生かす評価と結果としての評価

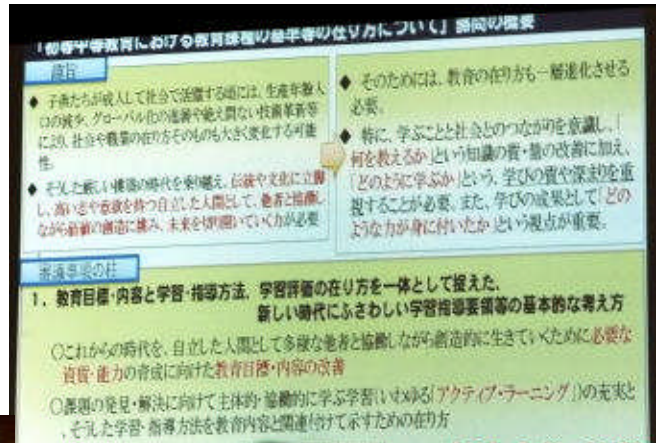
(5) 教師の力量は2つ

○ 指導技術と評価技術

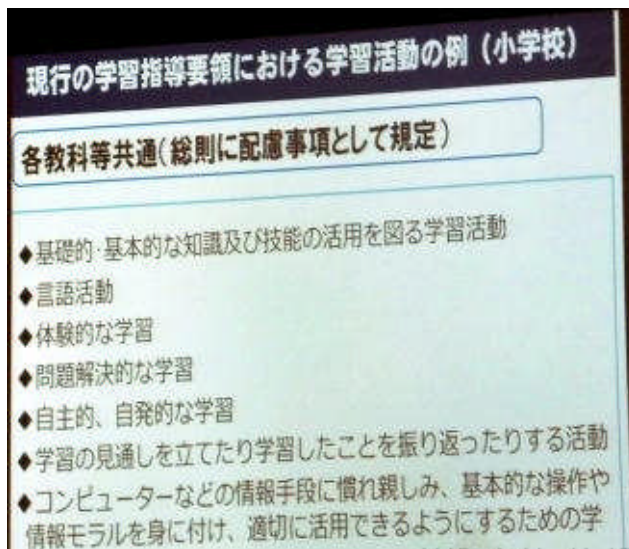
資料 澤井先生のお話の中に出てきた資料



「初等中等教育における教育課程の規準等の在り方について」諮問の概要 より



「初等中等教育における教育課程の規準等の在り方について」諮問の概要 より



「教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方に関する補足資料」より

	社会	算数	理科	生活	道徳
問題解決的な学習	問題解決的な学習	算数的活動	問題解決の活動	具体的な活動や体験を通じた学習	表現及び活動
(社会的事象を観察したり具体的に調査したりするとともに、地図や地球儀、統計、年表などの基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の特色や意味などについて考え、調べたことや考えたことを表現する)	(児童が目的意識をもって主体的に取り組み、新たな性質や考え方を発見しようとする。具体的な課題を解決しようとする。算数の知識をもとに発見的・応用的に考えたり、考えたことなど表現したり、説明したりする活動)	(児童が自然に親しむことによって見いだした問題に対して、予想や仮説をもち、それらを基にして観察、実験などの計画や方法を工夫して考え、行い、結果を整理し、相互に話し合う中から科学的な見方や考え方を身につけるようになる)	身近な環境に直接働きかけるとともに、そこでの楽しさや気付いたことを表現するなどの創造的な学習活動)	言葉の特色を取り上げたり、歌や物語、表現(歌、言葉、言葉、言葉)など、表現したり、感じたこと、意味をわたりする学	

「教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方に関する補足資料」より

◇ 基調講演 「確かな学びの実現を図る」

北 俊夫 (国士舘大学教授)

1 確かな学びのとらえ

(1) 子どもの立場から

- ・ 成果を自覚できること……成就感
  - そのために「目的意識」と「主体性」
- ・ めあてを持ち、見通しをもって主体的に問題解決していること。
  - 「問題解決的な学習」「思考力・判断力・表現力の育成」「言語活動の充実」
- ・ 成果を自覚し、新たな課題を意識できること。→ 振り返りと自己評価
- ・ 学習の入口と出口
  - 教材の「入口」が肝心 = 見通しをもつ。
  - 「出口」 = 自己評価 (何ができたか、何がわかったか)

(2) 教師の立場から

- ・ 設定する指導目標と内容の確かさ → それを実現する方法の有効性
- ・ 指導の手応え → 学習状況, 学習成果
- ・ 協働的な学び
- ・ 何のために (目標), 何を (内容), どうやって (方法)
- ・ 目標と指導・評価の一体化

## 2 教師の役割

### (1)目標

- ・設定の確かさ……結果を見据えて

### (2)指導

- ・問題解決型……主体的な学び／協働的な学び → アクティブラーニング
- ・学習の仕方を習得させる → ラーニングスキル ・グループでの話し合いの仕方

### (3)評価

- ・指導に生きる評価……短いスパンでの評価

## 3 確かな学びと評価

### (1)評価の目的

- ・子どもや保護者に知らせる……伝達機能
- ・指導要録など……管理機能（保存）
- ・指導に生きる評価……授業改善 → 「確かな学び」を支える。

### (2)授業におけるP D C Aサイクル

- ・子どもとの日常的なかかわりを通して → 「この子はこのことがわかっているのか」「できるようになったか」「この子はわかっているな」
- ・瞬時の評価で直ちに授業改善
- ・自己評価と相互評価の重要性  
→ 教師の評価とは違った視点から、自ら展開した学びを確かなものにしていく。

### (3)一人ひとりのよさや可能性を伸ばす評価……個に軸足を置く

- ・学習意欲を高める。
- ・個人内評価 → その子らしさやそのこのよさを認める。

---

## ◇ シンポジウム 「確かな学びと教育課程の改定をめぐって」

コーディネーター：清水静海（帝京大学教授）

シンポジスト：安彦忠彦（神奈川大学特別招聘教授）

塩見みづ枝（文科省高等教育局大学振興課長／前初等中等教育局教育課程課長）

小泉与吉（台東区立対等育英小学校長）

---

**清水** ◎「確かな学び」とは？

**小泉** ○確かな学びの実現……学力向上・授業改善・学力テストの結果

- ・気になること……指導が学力に結びついているか？「知識・理解」だけでなく「思考・判断表現」までも。

- ・教師の役割……子どもの学びをコーディネートする力

**安彦** ○実施状況調査結果（2月公表）より……大きくは○

- ・課題……従前からの課題が相変わらず出てくる。

→ ×余裕を持った学習（じっくり話し合ったり、ゆっくり書かせたりする）

○活用型学習

- ・教科で習得した学力 → 他教科で活用できるか？
- ・言語活動はその手立てであり、目標ではない。

○教科の時間が増えた理由

- ・話し合ったり、書いたりする時間がないという声 → ゆったりと授業を進める時間を保証
- ・そのために総合的な学習の時間を削減、教科の時数増加

**塩見** ○現行学習指導要領

- ・学力低下に応えた。

- ・学力の3要素を明記した。
- ・どういう力が必要か？どうやって身につけるか？
- ・成果をあげてきた → 国際調査などの結果から

○活用力が低い

- ・社会の中で生きる学力 → 企業からの要請 = 「○○教育」「△△教育」

○従前の課題がクリアできていない……自己肯定感が低い

清水

◎評価について

安彦

○学力の確かさ

- ・①知識・技能の確かさ ②思考論理の確かさ ③たしかめの確かさ

○自己評価の確かさ

- ・短いスパンで、長いスパンで → 自分の学びを意味づける
- ・単に「できた」「できなかった」ではなく、前向きな評価を。

○様々な評価法

- ・これからはパフォーマンス評価（ルーブリック評価）

小泉

○「変わった自分との出会い」を自覚できること。

- ・教師 → 子どもの様子からの評価を／自分の授業の反省と改善

清水

○自己肯定感が低い

- ・教師が子どもを認めていない？
- ・できなかった（できない）ことばかり評価

○伸ばす評価を

塩見

○学ぶ目的を

- ・今、自分は何のために何を学習しているのか。

○大学入試

- ・ペーパーテスト中心からの変革 → 面接・論文（現6年生から新入試か？）

清水

◎「ここまでのまとめをお願いします」

塩見

○教員定数について

- ・環境整備 → 社会全体で学校を支援
- ・教員の支援 → 学校力 up

小泉

○総合的な学習の時間での活用力の発揮

- ・発揮できる場面を設ける

○児童の自己評価力を高める。

安彦

○自己評価と相互評価

- ・自分の学習を見直す（「振り返る」との微妙な差異）
- ・自己評価力を高めるための教師の評価活動 → 「自立」を目指す／自己教育力

清水

◎学習指導要領改定について

塩見

○文科大臣の「諮問」についての考え方

- ・今の社会分析 → どのように育てていくか？ → 「自立」して生きる
- ・どのような資質・能力？ → 他者と共に → どのように育てていくか？

○育成すべき資質・能力

- ・その「内容」と「評価」を審議した → 改定学習指導要領へ反映

安彦

○次の4点

①「資質・能力中心」

- 目標論
- 内容を教えただけではダメ
- 学習指導要領が大きく変わる。

## ②資質・能力の決め方

- 「総則」に明記
- 1.汎用的スキル……教科横断
  - 2.メタ認知能力
  - 3.各教科固有のスキル
- 汎用スキルに重点

## ③評価

- 身につけたことを何に使うか？→ 何ができるようになったか？
- 学習の仕方，プロセスにも目を向ける。
- 教科間総合の評価が大事……教科単独では見とれない，評価しきれない → 汎用スキル

## ④指導形態（方法）が示される

- 「解説」へ
- 汎用スキルをどう学ばせるか？……教科学習中心からの脱却
- 今まで以上に学校マネジメント能力が問われる。

**小泉** ○学校の在り方をどう変えるか

- ・今までの成果（積み重ね）をどう生かすか？

**清水** ○文科大臣の「諮問文」について

**塩見** ○3つの柱

1. 教育目標・内容と学習・指導方法，学習評価の在り方を一体として捉えた，新しい時代にふさわしい学習指導要領等の基本的な考え方
2. 育成すべき資質・能力を踏まえた，新たな教科・科目等の在り方や，既存の教科・科目等の目標・内容の見直し
3. 学習指導要領等の理念を実現するための，各学校におけるカリキュラム・マネジメントや学習・指導方法及び評価方法の改善支援の方策

○指導方法を示す

- ・一例としての「アクティブラーニング」→ これは特に新しい定義ではない。

**安彦** ○平成15年の一部改正

- ・基礎・基本と思考力 → 「探究」総合的な学習の時間で
- ・実社会で生きる → 知っていることを使って

○論点整理（「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」

- ・中教審でどう扱われるか？→ 政治介入？中立性の確保を
- ・コンピテンシー中心は揺るがない。

○「内容」は減らす方向か？

○ESD持続発展教育を大切に

- ・真剣に向き合う態度

**小泉** ○英語教育がどうなるか？学校5日制がどうなるか？

○アクティブラーニングに振り回される？

**清水** まとめを

**塩見** ○全国学力テストに社会をという声……難しい（予算面）・しかし発信していきたい。

**小泉** ○今まで培ってきたことを大事委にしたい。

**安彦** ○子どもの「自立」を目指す教育を。

- ・「自立」「創造」「協働」

○探究の評価

- ・成果物に独創性，個性があるか？ペーパーテストはダメ
-